

『地域の伝統的工芸品を学ぶ一びん細工手まり体験授業』



1月15日（木）16日（金）、本校2年生の家庭科の授業において、愛知川びん細工手まり保存会の皆さま・愛荘町愛知川びんてまりの館の職員の方をお招きし、地域の伝統的工芸品であるびん細工手まりについて学ぶ特別授業を実施しました。

びん細工手まりは、江戸時代から愛荘町に伝わる伝統的工芸品です。昭和40年代に作り手が激減し、継承するため、愛知川びん細工手まり保存会が結成されました。



口の小さな瓶の中に、どうやって大きな手まりが入っているのか、秘伝の技も教えていただきました。ガラス瓶が丸く、仲が良く見えることから『家庭円満』がイメージされ、縁起物として重宝されてきました。

授業前半では、保存会の方から、びん細工手まりの歴史、愛知川の地域文化、本校との縁について、写真や実物を用いたプレゼンテーションでわかりやすくお話しいただきました。



後半は、小さな手まりのキーホルダーブルクリに挑戦しました。

1グループにお一人

ずつ保存会の方についていただき、巻き方や色合わせの工夫等、丁寧に教えていただきました。みんな真剣な表情で取り組み、積極的に保存会の方に質問していました。和やかで充実した学びの時間でした。

今回の授業は、モノづくりの技術を学ぶだけでなく、地域に受け継がれてきた文化や人の思いに触れる貴重な機会となり、人と人とのつながりを知る学びを、実体験を通して深めることができました。

ご指導いただきました講師の皆さんに心より感謝申し上げます。

